

(臨床研究に関する公開情報)

岡山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

生体腎移植において移植前透析期間が移植腎及ぼす影響

[研究責任者]

腎臓移植外科 藤原拓造

[研究の背景]

当院で2002年12月に初めて移植前慢性透析を施行せずに生体腎移植（先行的腎移植）を行った以降、先行的腎移植例は増加しており、生体腎移植においては移植前透析期間が短くなる傾向にあります。一方本邦での血液透析の治療成績は非常に優れており、長期の透析の後腎移植を行う症例は欧米に比較すると多いのが現状です。移植前の透析期間が移植腎に及ぼす影響は報告により異なっていて結論に至っていません。

[研究の目的]

生体腎移植において透析期間が移植腎に及ぼす影響を検討することが本研究の目的です。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2002年12月1日～2021年8月31日の間に当院で生体腎移植を行い、当科に外来通院したレシピエントの方で、小児、早期に廃絶された方、転院された方等を除いた患者さんが対象です。206名の方が該当しました。

●研究期間

2022年10月 日より2023年10月31日までの予定です。

●カルテ情報

以下の情報をカルテより収集し、移植前の透析期間によりレシピエントをグループに分け項目の差を検討します。

移植時の年齢、性別、腎不全の原因疾患、移植前透析期間、ABO血液型適合性、HLAミスマッチ数、サイトメガロウイルス抗体価、ドナー年齢、ドナー性別、ドナー腎機能（クレアチンクリアランス値）、移植後1年以内の急性拒絶反応、サイトメガロウイルス感染症の発症、移植1年後の移植腎機能（eGFR）、悪性疾患、心血管疾患の発症率、移植腎生着率、レシピエント生存率 等

●検体や情報の管理

情報は当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は第56回日本臨床腎移植学会等で発表予定ですが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

国立病院機構岡山医療センター

腎臓移植外科 藤原拓造

電話 086-294-9911 (代表)      FAX 086-294-9255 (代表)